

Chord Tone Arpeggio Basic Training vol.05

確実に覚えておきたい、コードトーン・アルペジオの話

～Xm7、6弦ルート4種のパターン～

今回から、Xm7のアルペジオを学んでいきます。まずは6弦ルートの形ですね。

Cキーとリラティブキー(平行調)の関係であるAmキーを想定し、ルートをA音にし、Am7で弾いていきます。

インターバルとしては、root、m3rd、P5th、 \flat 7th(m7th)になるので、前回までのX7の時とは3度の位置が変わります。その辺りを特に確認しながら弾いていきましょう。

ということで、まずはヘッド側に展開するパターンです。

譜例1、Am7、6弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その1

この形は、2、3弦間でジョイントが発生するので、全体で見ると実用性はあまり高いものではないかもしれません。

ただ、6～3弦の1オクターブ内の形は、基本の理解としてかなり重要なものになってきます。

フレーズとして使う場合は、このアルペジオを分割するか、スライドなどを使って、以下の譜例2や3の形と合わせたほうが使いやすいでしょう。(※もちろん、そのまま使っても良い)

次は、真下に進むパターンです。

譜例2、Am7、6弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その2

巻の教材などでは、 $Xm7$ のアルペジオとして、この形はあまり紹介されていないかもしれません。

単に $Xm7$ の構成音(root、m3rd、P5th、m7th)を弾くだけであれば、次の譜例3が一番弾きやすいのですが、その他のテンションを含めたフレーズなどにする場合、この形を中心に見た方が、指使いなどを自然なものに出来る可能性があります。

ひとつ前の譜例1、次の譜例3と重複する部分が多いので、合せて把握しておく、フレージングの幅が広がるでしょう。(※範囲が広いので焦らずに覚えていきましょう)

続いて3つ目のパターンです。

譜例3、Am7、6弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その3

これがある意味、6弦ルート、 $Xm7$ コード・アルペジオの基本形かもしれません。

$Xm7$ (もしくは Xm)の代表的なコードヴォイシングと重なり、一番構造が把握しやすいものになっているかと思います。

スウィープやエコノミーピッキングなどにも適した音の配置になっていますので、演奏面でも使いやすい形ですね。

少なくともこれだけは、パッと弾けるようにしておきましょう。

ということで、今回最後になるのは、1オクターブずつボディ側に進むパターンです。

譜例 4、Am7、6 弦ルート、コードトーン・アルペジオ、その 4

Am7

17 18 19 20

人小葉人葉人小葉人葉人小葉小人

T 8-10-10-13 12 13 10-10-8 9

A 5-7-7-10 9 10-7 7-5 7

B 5-8 7 8-5

6 弦ルート→4 弦ルートの形ときて、ここでは 2 弦ルートの形(P5th まで)も載せてみました。

譜例 3 と 4 は特にマイナーペンタのポジションと重複するので、それらと照らし合わせてみても理解が深まるでしょう。

と、言うことで、今回は以上になります。

気が付いている人もいるかもしれませんが、XM7→X7→Xm7 と、構造が 1 音ずつ変わるような順番でこのテキストを進めています。

全てに言えることですが、これまで学んできた事との、違いと共通点の両方から見ていくと習得が早くなります。

がんばっていきましょう！

それではまた。

ありがとうございました。

大沼